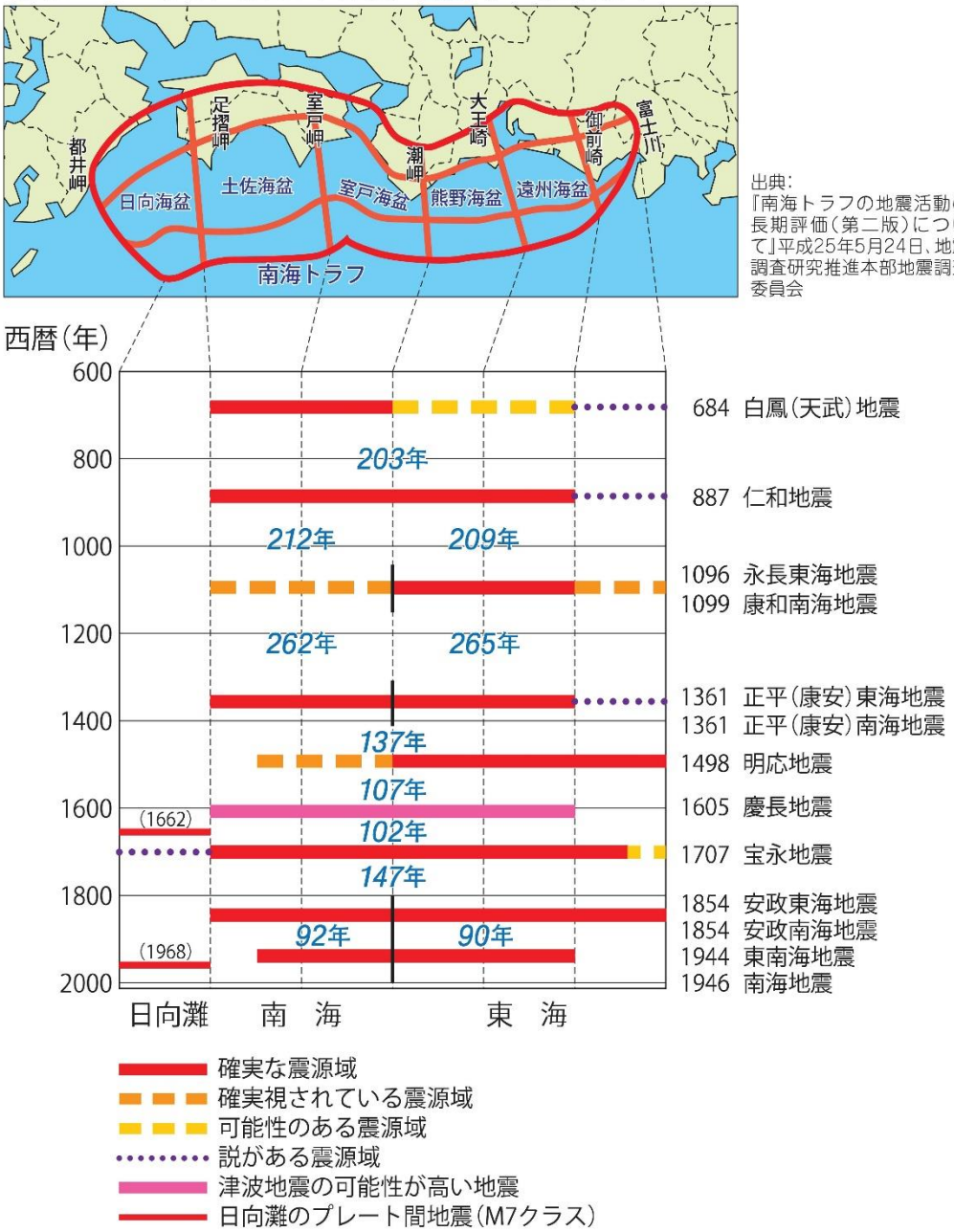
② 想定される大地震とは

繰り返し起こる大地震

東海から九州にかけての海域は、フィリピン海プレートが潜り込む駿河トラフ・南海トラフ沿いに位置し、国の地震調査研究推進本部による南海トラフ沿いの地震の長期評価によれば、南海トラフ全域（日向灘～富士川の領域）においてM8～M9クラスの地震が30年以内に発生する確率は70～80％程度と予想されています。過去の事例から見て、南海トラフの地震の発生には多様性があり、駿河湾から日向灘にかけての複数の領域で同時に、もしくは時間差で発生するなど様々な場合が考えられます。

南海トラフで過去に起きた大地震の震源域の時空間分布



出典：『南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）について』平成25年5月24日、地震調査研究推進本部地震調査委員会

※図中の青い数字は、地震の発生間隔を示す。

※震源域は地形の境界（都井岬、足摺岬、室戸岬、潮岬、大王崎、富士川）で東西に区切っている。

※黒の縦棒は、南海と東海の地震が時間差（数年以内）で発生したことを示す。